

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜 楽舎 ②		
所在地	島根県出雲市宇賀町23-1		
自己評価作成日	令和4年11月2日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和4年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇賀の杜楽舎の「入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る」「一瞬の笑顔を求めて・・・」の理念が実践できるように日々取り組んでおります。継続して、新型コロナウイルスの影響により外出や地域交流、社会参加は縮小された状況ではありますが、支援目標の「五感で食を楽しみ笑顔でいよう～口から食べれる喜びをいつまでも～」を掲げ、笑顔を引き出し、季節を感じ食を楽しんでいただける生活を提供できる様に支援しております。毎月「フルーツデイ」も計画し、旬のフルーツを提供することで思い出話や笑いの溢れるひと時となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本海から少し入った自然豊かな平坦な場所に位置し、窓からは田園風景が目に入る。開所から17年が経過し地域でも歴史のある施設で、同敷地内に認知症のデイサービスと1ユニットのグループホームがある。開所当時に掲げた理念を継続し、入所者、職員共に毎年個々に目標を掲げ日々の生活に繋がられるよう施設長を中心にした動きが感じられる。グループホームごとの支援目標にも職員の思いが現れており、コロナ禍で動きに制限がある中でもなんとか笑顔が見られるように考えられている。今年は豪雨の為に緊急避難を経験しており、デイサービスと連携した車での移動や、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら避難など今後に大いに役立つことと期待する。コロナ禍の為に職員体制が不十分な時期もあったようだが、理念への思いと職員同士の信頼関係やチームワークで乗り切っていたきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を唱和しスタッフ間で共有している。又、毎月の月間目標もスタッフが考え、掲げ、同様に唱和、実践し評価している。	開始時からの理念を継続。理念の考え方を踏まえて、入所者の意見を聞きながら毎年支援目標を作成している。支援目標が達成できるよう日々の取り組みに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、交流がまだ実践できていないが、コミセン便りを届けて頂いたり、お花のボランティアさんに来て頂いている。	コミセン活動や小学校の運動会や卒業式等の行事参加と交流も盛んだったが、ここ数年はコロナ禍の為難しい状況。プレゼントを渡したり、手紙のやりとり、音楽会のDVDを見せてもらうなど限られてはいるが交流を続けている。施設の新聞も地域に配布するなど発信も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月利用者様が作られた、季節の作品を展示して頂き、理解を求めている。定期的に楽舎新聞を発送している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて(書面上)現状報告し、意見交換している。	コロナ禍の為書面会議として定期に行っている。入居者の身体状況やコロナ禍での施設の取り組み等を伝え意見をj得ている。家族やコミセンやボランティアの代表者、行政関係者に送り得られた意見をサービス向上に繋げるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や訪問、または運営推進会議にて意見交換やアドバイスを頂いている。	運営推進会議には参加があり専門的な意見をj得ている。包括とは入所の問い合わせや困難事例の相談で関わり、生活保護担当課とは半年に1回訪問を受け情報交換を行い、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束について学び日々のケアについて、ユニットごとの問題点を上げ話し合っている(3か月に1回、廃止委員で検討している) リスクを配慮しながら「鍵をかけないケア」を行っている。	身体拘束廃止委員会を定期に開催。外部研修への参加や3施設合同での研修もj行っていたが、コロナ禍となり各ユニットごとで担当を決め実施している。現状の内容確認や今後グレーゾーンになる可能性のあるケースなど幅広く検討するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記同様、研修を行い日々のケアを振り返り、話し合い、より良いケアを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、学ぶ機会を持つようになっている。入居者様が自立した生活を送れる様、ご家族様、ケアマネージャー、ナース、スタッフと話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの際より、不安な事、困っている事、要望等聞くようになっている。また面会時や電話での問い合わせ時には都度お知らせと説明報告を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応の時、意見や要望をお聞きし、ケアプランに反映させている。	年に1回家族会を行っていたがコロナ禍で中止。家族には日頃の様子を伝えるおたよりを担当が書き、写真を添えて送り意見を得る機会としている。体調面の変化は電話で伝えたり、書面やメール等を利用するなど家族に合わせて伝えるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見交換できる雰囲気ができている。10時の申し送り時は、意見交換を行っている。	コロナ禍でここ数年職員間でコミュニケーションを図る機会を持っていないが、ユニットリーダーはスタッフの表情を見て話しかけたり、申し送り等の時間を利用してできるだけ意見交換ができるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3年に1回人事評価があり、モチベーションが上がるようになっている。有給休暇の取得を促し、リフレッシュしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、外部研修の参加は減少しているが、リーダー研修や実践者研修に参加後は取り組んだ事を活かすよう、内部研修を行っている。毎月講師担当を決めた内部研修も行い勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフが出雲地域介護保険サービス事業者連絡会、青年部の役員として他の事業所や医療関係者など交流し、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に前ケアマネージャーや病院等から話を伺い、入所前は実際にご本人様に会いに行き、現状把握やお気持ちを伺い安心して入所して頂けるよう支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より、意見や要望等を詳しくお聞きしている。また、不安な点があれば相談に乗り、安心して入居して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様の情報をもとにケアマネージャーや主治医と連携を取り、可能なサービス内容の助言・提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に出来る事や経験、知識を活かし、活躍の場を作っている。教えてもらいながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や面会時に、日頃の様子を詳しくお伝えしている。入居者様からご家族様宛のハガキ支援をして絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、触れ合っの面会は難しいが、離れた距離でお話して頂いたり、また、親しくされていた方々の名前、場所、土地など話題にしながら思い出して頂き、関係が途切れないよう努めている。	8月からは予約で窓越し面会ができるようになってきている。新しい入所者を心配をして友人や民生委員の訪問があるが、施設前のテラスで距離を保ちつつ言葉を交わす機会は持てるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて、仲の良い方同士にセッティングしたり、一人孤立しないよう配慮している。時にはスタッフが会話の橋渡しをしながら共同生活を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退所された方に会いに行っていたが、コロナ禍の為、現在は中断している。退所される時は、楽舎で過ごした笑顔の写真をアルバムにして渡している。その後も相談等出来る関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望をお聞きし、新聞折り、塗り絵、張り絵など好きな事、お得意な事を取り入れ生活習慣を大切にしている。	年の初めに1年の目標を習字で書いてホールに貼りいつでも見られるようになっている。自分や家族の健康を願うものが多くあるため、プラン作成に繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにより生活歴等、情報収集し把握している。入居者様とのコミュニケーションを多くとり、多くの情報を得て共有している。デイサービスから入所される方はデイスタッフより情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身アセスメントシートを活用し、見てすぐ分かる様情報収集し、また申し送り時に1日の様子を報告しスタッフ間で情報、現状を共有把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	念頭に入居者様の目標、願いなどお聞きしそれをケアプランに反映している。3か月ごとのモニタリング、ご家族様からの要望もお聞きし現状に合ったケアプランを作成している。	日々の記録にプランの評価を記入し、3か月に1回モニタリングをまとめている。コロナ禍で担当者会議の開催は難しいが短時間の面会時にできるだけ実施するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録とケアプランが連携しており、毎日の評価ができるようになっている。変化があればカンファレンス、検討会議録を活用し話し合い、情報共有し、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や急な受診、ご家族様の対応が難しい方などスタッフが付き添い情報提供し柔軟に対応している。医療行為は行わないが、ご家族様の意向でご家族様対応で注射を、スタッフが見守り、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、外部との交流は控えているが、郵便局への作品展示の為、意欲を持ち楽しみながら力を発揮しておられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続、1か月に2回の往診、医師への24時間連絡体制がとれ、何かあれば連絡し都度指示を仰いでいる。ご家族様の意向を尊重し支援を行い、遠方で困難な方は、ヘルパーを利用して頂いている。	以前のかかりつけ医を続けることも、協力医に変更することも可能になっているが、大半の方は入所時に往診や緊急時の対応が可能な協力医への変更を希望されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりから、変化の気づき、バイタルサインの異常があればナース、かかりつけ医に報告し、指示に従い支援、看護にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院にあたり、カンファレンスの実施と医療機関との情報共有により、入居者様、ご家族様が安心して治療を受けられる体制作りをしている。入院中、管理者が病院と連絡をとり情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の意志を尊重しながら、かかりつけ医と連携し最大限出来る事を支援している。状況や支援方法に変化がある時は都度連絡、説明し理解して頂いている。	現在看取り対応は行っていないが、重度に向けては病院との連携はとれており、介護度の変更に対しても特老への申し込みについて説明するなど、その都度話し合いの機会を持ち進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設け、全入居者様のカルテに119シートを加え、日頃から病歴、バイタル異常値を確認している。救急対応の研修にてAED使用法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消防訓練は年2回実施している。夜間想定や水害想定した訓練の実施避難アセスメントにより、全スタッフが早く誘導出来るように訓練している。ネームプレートを用いて地域の方にもすぐ分かるようにしている。	定期的訓練を昼と夜の想定で警備会社の協力で実施。今年は、施設前の小高い場所にあるため池が氾濫する危険性が出たため、一晩避難場所への避難を経験。移動、必要物品、新型コロナウイルス感染症の対応等、今回の経験を今後につなげる意向。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修にて権利擁護について学び、日々寄り添った支援を心掛け実践している。人格や性格、認知症状の違いを理解し、尊重した関わりができていく日頃から確認しあっている。	声かけや言葉使い、排泄の場での配慮等不適切に感じる場面や、自分でも気づかないこともあるのでお互い注意し合うようにしている。内部研修でも取り上げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の食べたい料理をお聞きし、食事メニューに取り入れている。また入浴でも意志確認を行い、入居者様の判断で入って頂いている。会話から希望、要望を取り入れて支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いを尊重し、また、その日の体調に合わせて無理強いない様に対応している。テーブルを囲んでレクを行ったり、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の散髪にてカラー・顔そり等ご希望に沿って理容の支援を行っている。季節に合った衣類の交換や朝晩の更衣により、清潔感のある生活をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとに旬のフルーツと一緒に考え季節を感じて頂いている。新型コロナウイルス感染防止の為、エプロン・マスク・三角巾の着用・手洗い・消毒してもらい、火を通す食材のカット等出来ることをして頂いている。誕生日には希望メニューも提供している。	今年目標が食に関係していることもあり、特に昼食時の調理に関わる場面が食べる喜びに繋がるようにしている。男性でも調理経験のある方がおり、コロナ禍で制限のある中でも積極的に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、摂取量が低下していないか、また月1回の体重測定により、体重が減少していないか、考慮している。好みに合う補食や飲料も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には、毎食後声かけしながら行って頂いている。また、十分にできない方にも介助で仕上げ磨きをさせて頂き、口臭、汚れゼロを目指している。毎夕食後には、義歯を洗浄剤で除菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ誘導をなるべく同じ時間帯に行っている。排泄リズムの把握しながら環境を整え配慮している。	トイレ誘導を定時に行うことで排泄リズムが確立するようにしている。布、紙パンツ、パットの併用、オムツと個々に合わせて使用している。尿量やコスト面にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩け歩け運動を行ったり、腹部マッサージを体操に取り入れたりして自然に便が出るよう工夫している。また、水分をしっかりと取って頂く事や、時に冷たい牛乳を飲んで頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの残存機能を活用し、自分で出来る事は行って頂き、ゆったりとスタッフとの会話も楽しんで頂けるようにしている。	家庭用の浴槽で、重度で車イスの方は出入りが難しいためシャワー浴対応になっている。以前は夜入浴を希望する方に対応していたが今はしていない。2日に1回のペースで入れるよう声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には布団を干したり、担当が寝具を都度洗濯し清潔にしている、また日光浴をしたり、昼間の活動を促すことで安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週水曜日に薬局より、変更等した薬の内容をお聞きし理解に努めている。服薬の前に名前、日付、枚数等必ず声に出して確認している。飲み込まれるまでそばに寄り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事や得意な事を把握し、やりがいを感じて頂き、いつも笑顔で過ごして頂けるよう支援している。また会話の中から好きな事、喜ばれる事を探すように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は難しいが、庭を散歩したり、お花摘みなど一緒に季節、外の風を感じて頂いている。	敷地内が広い為、施設の周辺を散歩するようにしている。庭に花を植えているので水やりに出ることも気分転換になっている。コロナ禍や体制面が整いにくい時期もあり、外出の機会が減っていたが、次年度は増やしていきたいと考えている。	できるだけ多くの外出の機会が持てるよう検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、入居者様が買い物に出かける事は難しいので希望の物をスタッフが代わりに購入している。お金を持っていないと不安な方はご家族様了解のもと、お金を所持して頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればして頂いている。また、個人で携帯電話を使用する方もおられる。コロナ禍の為、面会を規制しているため、ご家族様との繋がりを保つよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感をとり入れる採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はカーテンを開け、外の天気分かるようにしている。ホールには季節に合わせた作品を作り、皆で季節に合った話をしていく。また、月ごとにフルーツデイを設け、季節を感じて頂いている。	玄関と事務所を中心に左右対称の建物になっている。掃き出しの窓でどこからも外の景色が良く見える。デイルームには畳の部分があり廊下の畳のベンチも床暖になっている。全体が木目調で落ち着いた空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、畳の間があり、仲が良い方と一緒に話をしながら洗濯物をたたんだり、横になって一人でテレビを見て過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の状況に合わせて、ベッドではなく床に布団を敷いて寝る方もおられる。毎月ご自分で塗られたカレンダーを貼り、暦が分かるようにしている。	思い入れのある物の持ち込みを勧めている。収納スペースが少ない為、布団や衣類は季節に合わせて家族に持って来てもらっている。テレビやタンスが置かれ、壁には写真や作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前からだけでなく横から見ても分かるように目線の高さに張り紙をつけている。また赤テープで目印を目立つようにしている。動線の妨げにならないよう、環境に気を配っている。		